

文部科学省大学間連携共同教育推進事業「超高齢社会に対応できる歯科医師の養成」
第1回公開シンポジウムを開催して

昭和大学スペシャルニーズ口腔医学講座 歯学教育学部門
片岡竜太

歯学部では文科省大学間連携共同教育推進事業の支援を受けて「超高齢社会で活躍できる歯科医師の養成」5年間のプロジェクトに岩手医科大学と北海道医療大学と関連する9歯科医師会と一緒に取り組み3年が経過しました。この取組の成果を公開するために、第1回公開シンポジウムを6月3日(水)に昭和大学旗の台校舎で開催しました。

文部科学省高等教育局大学振興課の川原洋佑様に「本取組に期待するもの」として、1)本取組を3大学以外の大学にも広め、2)成果をわかりやすく公開し、3)本事業を継続可能なように後継者を育てて欲しいというご挨拶をいただきました。次に奥州市国保衣川歯科診療所 所長 佐々木勝忠先生に「卒前教育、卒後教育(歯科臨床研修)に求めるもの～NST 連携、介護連携の実践の中から～」というタイトルでご講演をいただきました。保健・医療・福祉が一体化された施設の歯科診療所で長年多職種連携医療に取り組みながら、学生や研修医の指導をされている経験をもとに、「低栄養」と口腔内の状態の関連に関するお話をしていただきました。非常にわかりやすく説得力のあるお話でなぜ歯科医師が超高齢者に対応するチーム医療の一員になる必要があるのかが明確になりました。

シンポジウムでは、「取組の概要と成果について」と題して、片岡竜太教授(昭和大学)による本事業の全体像の紹介に続いて、越野寿教授(北海道医療大学)、城茂治教授(岩手医科大学)、弘中祥司教授(昭和大学)により、北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学のそれぞれの取り組みについてわかりやすく紹介していただきました。東京都大田区大森歯科医師会 会長下山忠明先生には「ステーキホルダーとしての取組と本取組に期待すること」というタイトルで本取組を3大学に限らず他の大学も含めた事業に拡大し、高齢社会に対応できる歯科医師が一人でも多く養成されることを期待するというお話をいただきました。総合ディスカッションにおいては、本事業の現時点での成果および今後の課題について活発な討論がなされました。最後に本取組の外部評価者である東京大学の大西弘高先生と東京医科大学のR. ブルーヘルマンス先生に3大学の学生間の交流を図るべきであるという貴重なご意見をいただきました。

シンポジウムの後は向井美恵名誉教授、岩手医科大学の三浦廣行学部長をはじめ岩手医科大学や北海道医療大学の教職員の方々をまじえて、本取組のさらなる発展を祈りつつ懇親会が開かれました。翌6月4日(木)には第7回のITを活用した教育センターWSが開催されました。現在3、4年生に活用しているIT教材の改善を検討し、5年生に用いる症例ベースの教材の概要を決定しました。歯科医師会の協力を受けておこなっている3大学の地域医療実習の紹介を基に、より良い地域医療実習について歯科医師会の先生方から活発なご意見をいただきました。3大学の連携とともに歯科医師会との連携がさらに深まってきたことを実感したWSでした。

最後になりましたが、忙しい時期にも関わらずご参加いただいた各大学ならびに歯科医師会の先生がた、そして運営にご尽力いただいた協力 IT 企業、ならびに各大学の事務関係者に心から御礼申し上げます。